

町田わくわく！科学実験教室
あら、ふしぎ、光の三原色

1月17日（土）、町田市民フォーラム4階にて、町田YMCAが運営する「わくわく！実験教室」が開催されました。

1月のテーマは「光の三原色」でした。用意された筒にプラスチックのような膜が張られた円形の厚紙を貼り付け、反対側には自分で好きな形に穴をあけた黒い紙を差し込みます。

できたところで蛍光灯を見ると、あら不思議、穴から入ってきた光は虹色になってしまいました。くるくる回すと万華鏡のように虹色の模様が動きます。でも、赤い光だけのライトをのぞいてみても、赤色だけで虹色になりません。青色のライトでも青色だけ、緑色のライトでも緑色だけでした。今度は緑と赤のライトを同時につけると何色か、考えた後、合わさってできた黄色い光をこの筒で覗くと、黄色が赤と緑に分かれて見えしました。全部混ぜると白い光になり、この筒で見ると分かれて見えたのです。回折格子の説明は一切していないのですが、子どもたちは目で見て「きれい」と楽しんでいました。（山口和彦）



ナイトフォーラム
「不登校問題を考える」第1回

1月25日（日）からワイズメンズクラブ東日本区のナイトフォーラムがリモートで始まりました。3回の予定で、全国で約35万人いる不登校の問題とそれに対する各YMCAの取り組みが取り上げられます。

第1回は山梨YMCAの取り組みを、元小学校校長で、退職後、山梨YMCA職員になられた土肥さんが紹介してくださいました。不登校者の数はコロナ禍を挟んで約2倍になっているが、

これには「学校復帰を前提としない」という方針の変化もあるそうです。2017年から施行された教育機会確保法では休養の必要性を認めながら、多様な学びの機会の提供、社会的自立を目指すもあり、その中で、山梨Yでは空いている建物を利用して、放課後等デイサービスなどを利用し、インクルーシブ学童を実践し、問題を抱えた子供たちの“居場所”を提供しているそうです。昨年4月からはフリースクールも始め、学習支援、出会いと経験、心のケア、学校や関連機関との連携に努めているそうです。ワイズにも資金援助、ボランティア、就労体験などで手伝ってほしいとのことでした。（山口和彦）

今後の予定

今後の予定

町田コスモス
2月5日第一例会(卓話:荒井様)
2月15日自主献金振込締切日
2月19日第二例会(部長訪問)
2月21日町田わくわく！実験教室
3月5日第一例会
3月19日第二例会、東京町田YMCA活動委員会
3月21日町田わくわく！実験教室
6月27日町田コスモス30周年例会

1月30日東日本区大会受付開始
2月4日外国ルーツのある子どもたち
“今”から考える生きやすさ(東陽町)
2月15日東日本区ナイトフォーラム第2回
2月21日外国にルーツのある若者から学ぶ
多文化共生(東陽町)

2月25日在京ワイズ会長会
3月7日東京YMCA高等学院文化祭(山手Y)
3月10日お茶講座第1回(深尾部長)
3月14-15日会長研修会(御殿場)
3月19日認知症サポート講座(山手Y)
3月24日お茶講座第2回(深尾部長)
3月25日在京ワイズ会長会
3月28日地雷廃絶チャリティーコンサート(八王子)
4月7日お茶講座第3回(深尾部長)
4月21日お茶講座第4回(深尾部長)
6月6-7日東日本区大会(石巻)
7月多摩スマイル10周年記念例会
8月在京フォーラム(リーダーOBOG)
11月6日YMCA支援チャリティーコンサート(霊南坂教会)

会長 山口 和彦
副会長 権藤 徳彦
書記 加藤 祐一
会計 富樫 紀代美
担当主事 諏訪 治邦

30周年にむかっています(6/27／町田ヴィラホテル)

事務所：227-0036 横浜市青葉区奈良町1566-565 山口 和彦気付
第1例会 第1木曜日 17:30～19:30／第2例会 第3木曜日 17:30～19:30
場所 玉川学園コミュニティセンター会議室

会費振込先 【銀行口座】きらぼし銀行 玉川学園支店 0137
店番 060 口座番号5048617 東京町田コスモスワイズメンズクラブ



町田コスモスの第一例会、第二例会のオンライン会議室は東日本区会議室(QR左)に一年間予約しました。
jitsiMeet (ジッチェミート QR右) は活動委員会などに使用します。



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
JAPAN EAST REGION TOHSHIN DISTRICT
TOKYO MACHIDA COSMOS

東京町田コスモスワイズメンズクラブ

TO ACKNOWLEDGE the DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT.

「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う。」

2026年2月号
第355号

【今月のことば】



今月は、平本さんは、入院のため「今月のことば」はお休みいたします。

平本善一さんの息子さんからご連絡がありました。足首を痛めたということで体調は元気とのことでした。

回復をお祈り申し上げます。一同

TOKYO MACHIDA COSMOS

Chartered in May 1996

2026～2027年度主題

クラブ会長
山口和彦(町田コスモス)

主題：現実を見すえ、コースのために着実な一歩を！
スローガン：共に未来を創ろう！

東新部部長
深尾香子(多摩スマイル)

主題：「考えること」を止めないで進もう！
スローガン：棚卸と原点回帰。評価から展望へ。

東日本区理事
山下 真(十勝クラブ)

主題 『ワイズのらしさ再発見』
スローガン Change！

アジア太平洋地域会長
田上 正(熊本むさしクラブ)

主題 『信念と愛を持って行動しよう！』
スローガン YMCA、コースと共に地域社会に貢献しよう！

国際会長
Edward Ong (シンガポール)

主題 『信念、愛、行動』
スローガン 『共に、より強く』

【2月の強調テーマ】

TOF/EF/HTW

2026年2月第一例会

日時 2026年2月5日(木) 17:30～19:30

オンライン <https://meet.iit.si/町田コスモス例会>

場所 玉川学園コミュニティセンター 2F多目的1A

オンラインする場合は、末頁のURLをなぞって、URLの窓に貼り付けてください

設営：加藤、受付：富樫 進行司会：加藤

開会点鐘
ワイズソング
モットー、ワイズ信条
今月のことば・感謝の祈り
ゲストビジター紹介
会長挨拶

会長 山口和彦
一同
司会 平本善一
会長 山口和彦
――

卓話タイトル

『巡る縁による
社会への貢献について』

卓話者

荒井永理さん
子ども食堂
「ほくの家」代表
デイサービス聖ヶ丘
施設長

YMCAニュース・アピール
諸報告
ハッピーバースデー
にこにこ献金
集合写真・献金報告
閉会点鐘

担当主事 諏訪治邦
書記 他
会長 山口和彦
ドライバー
司会、会計
会長 山口和彦

巻頭言

書記 加藤 祐一



わたしは、昨今の今頃は舌癌で入院しておりまして、今はずいぶん、回復してきました。この記事を書くこと、ブリテンの作成は楽しいこと。それはつくる「意欲」をつくります。その環境が整ったことで楽しく作業ができます。ワイズは健康人生をつくります。

新年会では在京とかながわ部の2つ会に参加して新年を楽しみました。

そうやっておおぜいの人と関わりと繋がりを感じることの喜びを感じました。そして今年はコースとつながる年にしたいです。



2月Happy Birthday：該当の方はいません

1月データ	在籍	8 名	例会出席	メン	5 名	BFポイント		町田コスモス	
	出席	5 名		メーキャップ	0 名	切手	0 g	にこにこ	0 円
				出席率	62.5 %			累計	31,750 円
				メネット	0 名	累計	0 g		
				ゲスト ビジター	0 名				

2月第一例会 卓話者の紹介
荒井 永理さん



荒井永理さんは、子ども食堂「ほくの家」の代表をしております、デイサービス聖ヶ丘の施設長をしております。
(写真はyoutube【多摩市50周年物語】荒井永理 物語より転載)

<荒井永理さんからメッセージ>

周りの皆様のおかげ様で、子ども食堂andフードパントリー活動を6年続ける事が出来ています
人の縁によるパントリー維持は、まさに愛の循環。その効用と、何故ひとり親家庭の貧乏は、再生産されるのかについての考察から、人の縁で子どもたちの社会が変わるのか。その実現への壁のお話。実際の活動から見える実態を皆様にお伝えします。

在京新年会（第一例会）

日時：2026年1月10日（土）16：00～18：00
場所：東京YMCA 東陽町

出席）山口和彦、加藤祐一

1月10日土曜に東陽町の東京YMCAを会場にして在京のワイズメンが集まり、盛大な新年会に参加してきました。

第一部は演奏会、挨拶、ワークショップがあり、第二部ではケータリングによるビュッフェと盛大なフェローシップで盛り上がりました。演奏会はトーンチャイムというベルを鳴らしてアメイジング・グレイスなどを奏でました。演奏したのは飯靖子さんの率いる東京YMCA高等学院の女子学生の方々でした。呼ばれたら演奏に行きますよとお話されましたのは、嬉しく思いました。



現役のリーダー 丸山圭太君が司会で、ワイズメンとリーダー達との楽しい交流ができる企画アイデアを話し合い、その後リーダーとワイズメンが一つのテーブルで話し合う展開となりました。

その後ユースの例会やイベントへの参加等のアイデアの発表があり、そのムードでパーティのように楽しく過ごし、お腹も心も大満足でした。二次会はサイゼリヤでも大盛り上がりで散会しました。（加藤祐一）



ユースとワイズの交流場づくりとは？

(右は司会の丸山さん)



30周年記念例会をアピール 二次会を楽しむ

YMCA とワイズの新年交流会 2026
1月17日(土)18時 中華街「廣東飯店」

在京新年会ではかながわ部の部長から新年会のお誘いがありましたので1月17日土曜横浜市中区山下町にある 中華街「廣東飯店」に富樫ワイズと参加して参りました。



会場には武蔵野多摩クラブの山口直樹さん、多摩スマイルの深尾さん、石田さんがいらっしゃいました。私たちの円卓には金沢クラブのメンバーとご一緒、そのうち挨拶では私が横浜市民30年であることを告げると横浜クラブからお誘いがあり、いつかは地元のクラブに行きたいと申し上げました。

次期部長が厚木クラブの佐藤ワイズ。部を越えて新年を祝うことができました。（加藤祐一）



第二例会 1月15日事務会
(2月19日は部長訪問)



町田コスモス30周年行事である記念例会のアピールを1月10日在京新年会でチラシを配布しました。また壇上にあがってアピールもしました。この報告をもとにさらにどんな

盛り上げるか話し合いました。在京新年会で披露されたトーンチャイムの演奏を記念例会でお呼びする案を山口会長が提案しました。

また2月は自主献金をする月なのでその内容について審議いたしました。功労会員である平本さん、松香さんを確認したうえで分配についてその目標を独自にたてて、その内容で会計の富樫ワイズと相談しながら金額を決めました。

2月5日第一例会の卓話は多摩スマイルのご紹介でもある子ども食堂を運営している「荒井永理さん」にお願いします。2月には部長訪問がありますが、第二例会の2月19日のリアル例会に深尾部長がリアル訪問されます。（加藤祐一）

東京YMCAニュース
諏訪 治邦

- 12月20日、日本YMCA同盟主催、東京YMCAと日本児童青少年演劇協会の協力で、日本在住ウクライナ避難民対象のクリスマス会が山手センターで開催され、ウクライナと日本の親子約90名が来場した。人形劇団MあんどBによるウクライナ民話「てぶくろ」や「そうくん そうさん」などを鑑賞した他、レクリエーションを通してウクライナと日本の子どもたちが交流した。
- 会員部より会員や関係団体等に「クリスマス募金」の協力をお願いしたところ、個人523名、企業・団体11法人、総額1,923,010円のご支援をいただいた（12月末現在）。ユースボランティアリーダー養成募金、国際協力募金、フレンドシップファンド、ウクライナ支援のために用いる。
- 「Amazonみんなでサンタクロースプログラム」（Amazonの「ほしいものリスト」を使って公益団体等に物品を寄贈するプロジェクト）を通して、1月20日現在5名の方から、外国にルーツのある子どもたちの日本語サポートプログラム、及び特別支援学校でのお話し会の活動のために物品のご寄贈をいただいた。
- 2026年度に実施される海外交流プログラム「ダイナミックサマー」の受付を開始した。埼玉・横浜・名古屋・東京YMCAが協働して企画し、小3～高校生を対象に、アメリカ各地のキャンプ場を中心に10コースが設定されている。
- 「全体職員研修会」2月11日 会場：青山学院初等部 講師：片柳弘史神父（カトリック宇部教会主任司祭）
- 「東日本地区YMCAスタッフ研修会」2月17日～19日（福島）

・「YMCAピンクシャツデー2026」（いじめ反対運動）2月25日

6. 海外来訪者

・香港中華YMCA大学生グループ12名受入。
(1月5日～10日)

7. 深 悼 謹んで哀悼の意を表します

・阿山剛男氏（名誉会員）11月召天 享年102
・井口延氏（東京YMCA元総主事・とちぎYMCA初代総主事、日本YMCA同盟元総主事）
1月6日召天 享年87

ソシアスフォーラムに参加しました



1月31日（土）、東京YMCA山手センターにて2025年度のソシアスフォーラムがリアルとオンラインのハイブリッドで開催されました。リアルが約50人、オンラインが約20人と多数の参加がありまし

賛育会は100年以上も前に、東大YMCAが中心になって貧しい患者、特に妊婦さんと赤ちゃんのための無料診療所を開設したところから始まったそうですが、現在は墨田区に大きな病院を持っています。大江さんは30年以上、神戸、横浜、同盟とYMCAで働いた後、2023年から賛育会でこのプロジェクトの事務局長をされています。強調されたのはサイレント・エマージェンシー（声なき緊急事態）ということで、一見、皆が平和で問題なく暮らしているように見える日本の暮らしの中で、社会的に孤立した若い方の予期せぬ妊娠、孤立出産にともなう母子の生死をかけた緊急事態が気づかれず進行していることだとおっしゃっていました。まずは匿名相談を受け、さらに内密出産、ベビーバスケット（匿名の預け入れ）といった事業を、行政、警察、民間支援施設（母子寮、乳児院等）と連携しながら、進めているそうです。妊娠判明と同時に相手の男性は消え、シングルマザーだった母も今は他の男性と暮らしているため、「自分で何とかしなさい」と全く相手にしてもらえず、相談してきた14歳の少女の例など、ショックを受けました。まずこうした緊急事態が気づかぬところで進行していることに留意し、母子を社会的孤立、生活困窮、養育困難という状況から救うことが、コミュニティ全体の課題として、自覚され共有されることが重要だ、とのお話でした。

このプロジェクトは皆様からの寄附を受け付けているそうです。その後、グループに分かれての話し合い、学生リーダーたちによるレクリエーションがあり、有意義な集まりでした。（山口和彦）